

Okayama 岡山市民版

海外画家と障害者施設利用者

メイン作品仕上げる

きょうから卸センター 慈善絵画展

障害者就労支援施設「FOT SPACE」(岡山市北区表町)の利用者らによるチャリティー絵画展が4、6日に卸センターホールミニオン(同問屋町)で開かれるのを前に、出展者の一人でオーストリアの画家ミヒャエル・クーデンホーフ(カレルギーさん(77)が3日、同支援施設で利用者と一緒にメイン作品を仕上げた。

ミヒャエルさんは古い町並みや建物などを



仕上がったメイン作品を手にするミヒャエルさん(左から2人目)と施設の利用者

緻密な描写と淡い色使いで描く写実表現で知られ、作品に感銘を受けた利用者の願いで招かれた。3日は利用者の男女3人があらかじめ岡山風景を描いた写真に撮って貼ったりした模造紙(縦79センチ、横108センチ)の空白部分に、ミヒャエルさんが筆と岡山城天守閣をイラスト風に描いた。

明るい作品ができた。大勢の人に見てもらいたい」と話した。作品は展示後、施設に掲げる。午前10時〜午後6時。入場無料。作品は販売も行い、売り上げの一部は日本ダウン症協会岡山支部などに寄贈する。

ミヒャエルさんは3日、市役所を訪れ、橋本豪介副市長に絵画展を紹介した。(小谷章浩、岡本遥加)

チャリティー展で障害者の自立支援

北区できょうから

障害者の個性を伸ばし、自立につなげよう

とチャリティー展「現代国際絵画展」が4日、北区問屋町の卸センターで始まる。シャガール、東山魁夷、平山郁夫をはじめ、ダウン症の書家・金澤翔子さん、難聴のピアニスト、フジ子・ヘミングさんなど約50人の作家による約1000点が並ぶ。6日まで。

ダウン症など障害者やその家族を支援する、NPO法人FOT(岡山市)の実行委主催。3日は、FOTが運営する障害者就労継続支援B型事業所の利用者ら、チェコ出身で国内外で活躍する画家、ミヒャエル・クーデンホーフ(カレルギーさん(77)と一緒に、

ミヒャエルさん(中央)と岡山をテーマにした共同作品に取り組む事業所の利用者たち(北区表町1のNPO法人FOTで)



岡山をテーマに共同作品の制作に取り組んだ。利用者の北野和海さん(36)が赤磐市の桃をかたどったタンクを撮影した写真を画用紙に貼り、稲本昭吾さん(38)が緻密な模様を描

き、ミヒャエルさんは「アイデアが次々と浮かぶ。楽しい」と岡山城を描くなど、幻想的な作品が完成した。同事業所利用者の作品も展示される。

【前本麻有】